教科書には載っていない！

現場で役立つ プログラミングのちょい技

第3回　プログラムの「かたなし」と「型破り」

邑中 雅樹

型がそろっていると綺麗に見えるものが世の中にはたくさんある．プログラムもその一つのようだ．そして，プログラムの型も伝統芸能のように叩き込むような修業が必要なのかもしれない．

（編集部）

1.「型破り」と「かたなし」

先日，小さいころから日本舞踊を習っている初老の方とお話する機会がありました．落語や歌舞伎といった日本の古典的な大衆芸能には，“型”という概念があるそうです．いろいろと教示を受けるうちに，今回の話題に通じるものを感じました．大衆芸能について詳しい読者もおられると思いますが，話のマクラとして紹介したいと思います．

大衆芸能における“型”とは，その通りに振る舞えば自然と美しく見える決まりごとです．古来の達人たちが試行錯誤した集大成といえます．“型”は，その技芸の入門時から徹底的に叩き込まれ，周囲から認められるようになった後でもついてまわります．

技芸を追い求める人々にとって，“型”は一生をかける価値があると見なされているようです．しかし，“型にはまった”という表現は，私達が日常会話で使うのと同じように，あまりよい意味では使われないそうです．

図1　型破りか!? かたなしか!?

これはどういうことかと聞いてみたところ，型を会得した上で，あえて崩すことに個性が現れるのだそうです．“型破り”というのは日常会話でも使う表現ですが，技芸においては個性であり評価の対象となります．とはいっても，露骨な型破りでは品がないと嘲笑されるそうで，なかなか匙加減が難しいようです．

一方，型を会得しないで舞台や高座に上がるのは“かたなし”といって評価の対象には全くならないとも聞きました．“かたなし”という表現を私の周りではあまり耳にしなくなりましたが，そういえば，ずいぶん昔に亡くなった私の祖父母は“イケていない姿”という意味で使っていたことを思い出しました．

2. 定評のあるソース・コードを眺めてみよう

前回は，読みやすいプログラムを書くために気を付けるべき，幾つかのポイントを挙げました．おおむね基本的なところは押さえたつもりですが，百聞は一見にしかずです．製品に組み込まれているソース・コードを引用するわけにはいかないので，代表的なオープン・ソースから引用して見てみましょう（**リスト1**）．

リスト1の各スタイルについて解説しようかと思ったのですが，私にも好みがあります．公平な解説にならない可能性がありますので，ざっと眺めて感じ取ってください．

● 一貫性のあるスタイルで，自分の中に“型”を持とう

リスト1の(a)～(c)を見比べると，インデントの付け方や変数の命名方針，コメントの分量などに違いはあります

KEYWORD── コーディング標準，MISRA-C，コーディング・スタイル，フォーマット・ツール